

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-164	高等学校	外国語	コミュニケーション 英語 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
9 開隆堂	コ I 332	New Discovery English Communication I		

1. 編修の趣旨及び留意点

本教科書は、「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」という学習指導要領外国語科の目標を基盤に、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」という「コミュニケーション英語 I」における目標の達成を大前提として編修した。特に中学校における学習及び「コミュニケーション英語基礎」における学習との円滑な接続を実現すべく、言語材料、言語活動、題材内容を易から難へ系統的に配列して学習内容の定着を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を育成することに意を注いだ。このことを実現するために、各課に4技能を有機的に関連づけつつバランスよく配するとともに、各セクション見開き構成により1授業時間単位の学習のポイントを明確にしてこれをコミュニケーション活動につなげることにより、教科の目標を無理なく達成できるように工夫して編修した。

2. 編修の基本方針

(1) 学習活動からコミュニケーション活動へスムーズに移行する。

教材の構成は基本的には文法シラバスとしているが、四つの領域の言語活動を有機的に関連づけて総合的にコミュニケーション能力を育成することが求められていることに対応して、文法にからめる場面と機能表現とを効果的に配置し、教材としての適切性に配慮して、生徒に身近で知的発見のある題材、取り組みやすい言語活動を数多く配置して、生徒の意欲的な発話につなげることを重視した。各活動はコミュニケーションの必然性や妥当性を考慮し、基本的な知識を身につけた上で4技能を使用に結びつけられるよう配慮した。また、言語の使用場面に特化した言語活動を行うための独立したページを7箇所にした。

(2) 中学校における学習、「コミュニケーション英語基礎」との円滑な接続を行う。

高等学校学習指導要領外国語科「コミュニケーション英語 I」の「3 内容の取扱い」に示されているように、中学校や「コミュニケーション英語基礎」における学習内容を繰り返し学習し、それらの確実な定着

が図れるよう特段の意を用いた。具体的には、Lesson 5-3 および 6-3 を除く Lesson 1-1～ Lesson 7-1 まで、中学校で学習する文法事項を扱った。また巻頭には、中学校と高等学校における学習内容との橋渡しとして、英語学習の核となる内容を学ぶ独自のページを設け、それらの学習を通じて、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養う総合的な指導をふまえ、コミュニケーション英語 I の内容に無理なく移行できるような工夫を凝らした。また全体を通じて、生徒の学習負担を考慮しつつ、高等学校段階にふさわしい自然な語彙・表現と構文を用いるよう留意した。

(3) 生徒の興味と関心を高め、学習意欲を喚起する題材。

異文化理解、日常生活、物語、自然、環境、スポーツ、慈善・平和活動など幅広いジャンルから題材を選んだ。本文は生徒が楽しく英語の学習が進められるよう発見や意外性のある内容のものを柱に選定し、語学学習だけにとどまらず、教科横断的な学習ができるよう特段の配慮をした。

3. 対照表

本教科書は教育基本法、学校教育法に則って編修したが、以下に特に教育基本法第2条（教育の目標）に典型的に対応する部分を示す。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所 (ページ番号)
題材の配列・構成	「真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと」については、教科書の全題材をとおして教科の目標に迫ることで達成できるととらえている。「幅広い知識と教養を身につけ」は、各題材の選定と扱いに活かしている（第1号）。	全課
教科書全体の活動	全課の課末において、ペア活動やグループ活動を通して互いに学び合い、高め合う活動が行えるように配慮した。また、グループやペアでの議論の題材を設定するなどにより、お互いの意見の異同を確認したり、尊重する態度を養うことによって、個人・集団としての正義と責任、自他の敬愛と協力の精神などが養成されるようにした（第3号）。	全課
Lesson 1 Useful Tools for Communication	ブログやメールで用いられる顔文字や略語の日英での使われ方の違いを通じて、コミュニケーションにおける文化差についての理解を深め、国際社会に発信する態度を養うことを目指した（第5号）。	pp.5-14
Lesson 2 Japanese Foods in the World	姿を変えて世界じゅうに広まった日本食についての題材を読み、我が国の文化や郷土のよさを見直し、外国の文化と比較することを通して異文化との相互理解ができるよう配慮した（第5号）。	pp.15-24
Lesson 3 Dog Saves Owner from Fire	体の不自由な飼い主の絶体絶命の危機を救った愛犬の実話を読み、豊かな道徳心を培う（第1号）とともに、正義や責任を重んじ（第3号）、生命を尊ぶ態度を養うことを目指した（第4号）。	pp.27-36
Lesson 4 Food Chain	食物連鎖の仕組みを説明した題材を読み、人間を含めた生態系における相互関係に対する理解を深め、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第4号）。	pp.37-46

Lesson 5 Useless or Useful?	「最初、人々を笑わせ、後に考えさせる業績」に対して与えられるイグノーベル賞について紹介した題材を読み、創造的思考や努力を続けることの重要性を学ぶことにより、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばすと同時に、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うことに寄与できるよう配慮した（第2号）。	pp.49-58
Lesson 6 The Arctic and the Antarctic	類似点が多いと思われがちな北極と南極についての題材を読み、極地の生き物、地形、気温などの具体例から両者の相違について理解を深めることにより、幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うことを目指した（第1号）。また、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを考慮に入れた（第4号）。	pp.59-68
Lesson 7 Pride of Japan	日本の町工場が有する比類ない技術力を扱った題材を読み、その技術力が日常の様々な場面に役立っていることを学ぶことで、職業及び生活との関連を重視し、勤労を尊重する態度を養うことを目指した（第2号）。	pp.71-82
Lesson 8 From Boston with Love	フルマラソンにおける性差別を打ち破る契機となった女性ボビ・ギブに関する題材を通して、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の発展に寄与する態度を養うことを目指した（第3号）。	pp.83-94
Lesson 9 A Priceless Heritage in Japan	日本の棚田に関する題材を読み、棚田が形成された歴史的経緯や現状について学び、棚田が自然環境や生態系に果たしている様々な役割を理解することで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第4号）。また伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する姿勢を養うことに寄与できるよう配慮した（第5号）。	pp.97-108
Lesson 10 Warm-Hearted King of Pop	マイケル・ジャクソンの歌に込められている平和への思いや慈善活動についての題材を通して、平和の尊さを学ぶとともに、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第5号）。	pp.109-120
Reading Alex's Lemonade Stand	生まれてまもなく小児ガンに侵された少女が、人々の善意に支えられながらレモネードを売り、ガン撲滅のために活動する姿を描いた実話を読み、命の尊さを学べる教材とした（第4号）。また、自他の敬愛と協力を重んじて、公共の精神に基づき、主体的な社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第5号）。	pp.124-130
Action! 1~5	「道案内」「買い物」「電話」など、特定の場面でなされる対話を通して、円滑にコミュニケーションを図るための豊かな情操と道徳心を培うことを目指した（第1号）。	p.25, 47, 69, 95, 122-123

4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

(1) 学習への動機づけの工夫

生徒の学習意欲を喚起するため、各課の扉ページには題材内容を象徴的に表した図版を大きく用いて、生徒の題材に関する興味・関心を喚起できるよう特段の工夫をした。また、図版の下には、「Get Ready」のコーナーを設け、題材に関する背景的な知識を活性化させることを通じて、各課の題材への導入をより容易に行うことができるように意を注いだ。各セクションの冒頭には、例えば、「海外で使われている顔文字はどのように読めばよいのですか。」(Lesson 1-1)のような投げかけを Pre-Reading Activity として配置し、題材内容への興味・動機づけを図った。

(2) 内容を深く理解し、表現力を伸ばすための工夫

各セクションには Check It!のコーナーを設け、本文の内容や要点の理解を確認する設問を配した。A では本文のポイントとなる内容を問う英問英答問題によって、本文内容についての理解度を確認するとともに、英語で答えることにより英語による表現力を涵養できる工夫をした。また、B では本文の内容について、英語の音声を聞いて答える正誤問題によって、本文の内容理解を確実なものにし、「聞く」活動を通して情報を的確に理解する能力を養うことができる工夫をした。

(3) 英文の構造を体系的に理解するための工夫

関連する文法事項・文構造をできるかぎり同一課内にまとめて配置することによって、教師が関連項目を体系的かつ効率的に教授できるとともに、学習者が英文の構造を体系的に理解し、無理なく学習事項を学ぶことができるよう配慮した。また、本文ページと Study Grammar!で学んだ学習事項を課末の Grammar Point と Grammar Practice でくり返し扱うことにより、コミュニケーションを支えるための基礎的な文法事項・文構造を学習者が確実に身につけることができるように特段の意を用いた。また、各セクションには、学習者が学んだ文法事項・文構造を効果的な言語活動を通して使うことができるように Express It!を配置し、自己表現へつながる工夫をした。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-164	高等学校	外国語	コミュニケーション 英語 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
9 開隆堂	コ I 332	New Discovery English Communication I		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

本教科書は、「英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う」という学習指導要領「コミュニケーション英語 I」の目標を 3 単位の授業時数で実現するために、特に以下のような点を工夫して編修し、特色とした。

(1) 編修上特に意を用いた点

- ア. 中学校で養ったコミュニケーション能力の基礎を踏まえ、四つの領域の言語活動を有機的に関連づけ、4 技能を総合的に育成することを編修上の最大の基本方針とした。
- イ. 外国の生活や文化について理解を深め尊重する態度を育成するとともに我が国の伝統文化を見直し、これを外国に発信していくための基礎的な技能の育成に資するとともに、豊かな心を育み、国際社会に生きる地球市民を育成するための題材を豊富に取り上げた。
- ウ. 巻頭には、中学校と高校学校における学習内容との橋渡しとして、英語学習の核となる内容を学ぶページ (Classroom English, 辞書の使い方, Pre-Lesson 1~4, プレゼンテーションに挑戦しよう!) を設け、それらの学習を通じて、中学校におけるコミュニケーション能力の基礎を養う総合的な指導をふまえ、「コミュニケーション英語 I」の内容に無理なく移行できるよう工夫を凝らした。
- エ. 言語の使用場面は、「コミュニケーション英語 I」の目標を達成するのにふさわしいものを適宜取り上げ、4 技能を有機的に組み合わせ活用できるよう、各課の Work Together! のほかに、独自のページ (Action! 1~5, 知っていると役に立つ表現①, ②) を 7 箇所配した。また、言語活動を設定する際には、ペアワークやグループワークなどを通じて場面特有の表現に習熟し、コミュニケーション能力が効果的に養えるよう工夫を凝らした。
- オ. 英語の音声的な特徴を解説するページ (音の強弱とつながり、日本人が区別しにくい発音) を 2 箇所配し、音の連結や強勢、日本語にはない英語特有の発音などに対する理解を深めることで、「話す」活動を効果的に行い、英語らしい発音を習得するための練習ができるよう工夫を凝らした。
- カ. 読み方の基本技術を具体例を通じて平易に解説するページ (スラッシュリーディング, つながりを示す語句) を 2 箇所配し、生徒が「読む」活動を効果的に行い、情報や考えなどを理解し、概要や要点をとらえる能力を養えるように意を配した。
- キ. 学習者には学ぶ過程が、指導者には教える手順が見て取れるよう、わかりやすい見開きの紙面構成、レイアウトとした。

(2) 特色(全体構成と各課の構成など)

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養うために、四つの領域の言語活動を有機的に関連づけつつ総合的に指導できるよう以下のような構成とした。

- ア. **Get Ready** : 題材内容に対する興味・関心を喚起するための英語による導入問題。英語で投げかけを行い、題材に関する背景知識を活性化させることで、題材内容への導入をより容易に行うことができるよう工夫した。学習内容への関心や意欲を高め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することを目的としている。
- イ. **本文** : 目標とする事項を含んだ本文を読んで、その理解および定着を図る。生徒への学習負担に配慮し、各セクションの総語数を 90~130 語程度に設定した。生徒が中学校で共通して学習してきた語として 1,070 語の基本語彙を想定して、本文全体を構成した。とりわけ前半の課では、中学校で学習した言語材料を再び取り上げ、中学校や「コミュニケーション英語基礎」で学んだ事項をくり返し学習することで、それらの確実な定着を図れるように特段の意を用いた。また脚注には、代名詞や語句の具体的内容を問う設問を配して、本文で読み取った内容の概要や要点を生徒が理解できるように工夫を凝らした。

- ウ. **Check It!** : 本文の内容・要点の理解を確認する設問。Aでは本文のポイントとなる内容を問う英問英答問題によって、本文内容についての理解度を確認すると同時に、英語で答えることにより英語による表現力を涵養できる工夫をした。また、Bでは本文の内容について、英語の音声聞いて答える正誤問題によって、本文の内容理解をさらに確実なものにし、情報を的確に理解する活動を通じて「聞くこと」に関する能力を養うことができるよう工夫をした。これらの作業を通じて教室では英語によるQ&Aが活発に行われ、生徒が英語に触れ、使用する機会が多くなるようにした。
- エ. **Study Grammar!** : 本文で学ぶ目標とする文法事項・文構造について、簡潔な説明とともにわかりやすい例文を提示し、学習内容を整理し、定着を図れるよう配慮した。
- オ. **Drill** : **Study Grammar!**で学習した目標とする文法事項・文構造の確認問題。平易な問題により、生徒が確実に言語材料の確認・定着を図れるよう工夫を凝らした。
- カ. **Express It!** : 各セクションで学習した目標とする文法事項・文構造を活用しながら行う自己表現力を養うための活動。「話す」活動を活発に行うことを通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成できるよう工夫を凝らした。
- キ. **Grammar Point** : **Study Grammar!**で学習した目標とする文法事項・文構造のまとめと補充を行うページ。図解を多く用いて関連する事項を体系的に提示することで、学習者が効率的に学べるように配慮した。
- ク. **Grammar Practice** : **Study Grammar!**で学習した目標とする文法事項・文構造を確認・定着させるための練習問題。各課で学んだ事項をくり返し復習することにより、学習事項のいっそうの定着を図り、確実にコミュニケーション能力を養えるよう工夫を凝らした。
- ケ. **Vocabulary Check** : 本文ページの脚注で扱った熟語や重要表現の確認問題。本文ページで学習した熟語や表現の定着を図ることで、表現力をいっそう伸ばし、「書く」活動につなげることができるように意を配した。
- コ. **Sum Up!** : 英語を「読む」ことを通じて、本文で読んだ内容の概要や要点をとらえ、要約文を完成させるための活動を設けた。
- サ. **Work Together!** : 本文内容と関連したテーマ・話題をもとに行う総合的なコミュニケーション活動。Aでは生徒どうしが英語で話し合ったり意見の交換をしたりする「話す」「聞く」活動を通して題材のテーマについて理解を深める活動、Bではそれにもとづいて情報や意見を「書き」、それを「話す」活動（発表）を多く取り入れた。

上記のように、学習指導要領外国語科（コミュニケーション英語Ⅰ）の目標と内容が十分達成できるような構成・内容になるよう特段の工夫をした。

2. 対照表

コミュニケーション英語Ⅰの標準単位数は3単位（年間105時間）であることから、本教科書は週3時間の授業時数を想定して編修した。なお、学校行事などのため年間105時間の8割程度が実質可能授業時数であると想定し、85時間程度で本教科書の学習が終えられるよう、全体の分量に配慮した。

以下、具体的に学習指導要領との対照及び配当時数の詳細を示す。

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
Classroom English	第3款:1場面b働きade	前見返し	—
辞書の使い方	第4款:2(3)	①	—
Pre-Lesson ①～④	第3款:2イウ(イ)	②～⑤	2
プレゼンテーションに挑戦しよう!	第2款:第2-2(2)アウ	⑥	—
Lesson 1	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イ, 第2-3(1), (2) / 第3款:1場面b働きabcde, 2イウ(エ)(カ), 3アイウ, 4 / 第4款:2(1)イ, (2), (4)	5-14	5
Lesson 2	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2) / 第3款:1働きabcde, 2イ, 3アイウ, 4 / 第4款:2(1)イ, (2), (4)	15-24	5
Action! 1	第2款:第2-2(1)イ / 第3款:1場面a働きabce, 2イ, 3ア / 第4款:2(2)	25	1
スラッシュリーディング	第2款:第2-2(2)イ	26	1
Lesson 3	第2款:第2-2(1)アイエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2) / 第3款:1働きbce, 2イウ(フ), 3アイウ, 4 / 第4款:2(1)ア, (2), (4)	27-36	5

Lesson 4	第2款:第2-2(1)アイエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1場面c働きce, 2イウ(ア)(カ), 3アイウ, 4/第4款:2(1)エ, (2), (4)	37-46	5
Action! 2	第2款:第2-2(1)イ/第3款:1場面a働きabcd, 2イ, 3ア/第4款:2(2)	47	1
音の強弱とつながり	第2款:第2-2(2)ア/第4款:2(2)	48	1
Lesson 5	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1働きbcde, 2イウ(ア), 3アイウ, 4/第4款:2(1)ア, (2), (4)	49-58	5
Lesson 6	第2款:第2-2(1)アイエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1働きc, 2イウ(イ)(ウ), 3アイウ, 4/第4款:2(1)エ, (2), (4)	59-68	5
Action! 3	第2款:第2-2(1)イ/第3款:1場面a働きabe, 2イ, 3ア/第4款:2(2)	69	1
日本人が区別しにくい発音	第2款:第2-2(2)ア/第4款:2(2)	70	1
Lesson 7	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1働きbce, 2イウ(カ), 3アイウ, 4/第4款:2(1)アイウ, (2), (4)	71-82	6
Lesson 8	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1場面c働きabcd, 2イウ(カ)(キ), 3アイウ, 4/第4款:2(1)アエ/(2)/(4)	83-94	6
Action! 4	第2款:第2-2(1)イ/第3款:1場面a働きabde, 2イ, 3ア/第4款:2(2)	95	1
知っていると役に立つ表現 ①	第2款:第2-3(1)/第3款:1働きac	96	1
Lesson 9	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1働きce, 2イウ(ウ)(エ), 3アイウ, 4/第4款:2(1)イウエ, (2), (4)	97-108	6
Lesson 10	第2款:第2-2(1)アイウエ, (2)イウ, 第2-3(1), (2)/第3款:1働きcd, 2イウ(ア)(カ)(キ), 3アイウ, 4/第4款:2(1)アウエ, (2), (4)	109-120	6
知っていると役に立つ表現 ②	第2款:第2-3(1)/第3款:1働きbd	121	1
Action! 5	第2款:第2-2(1)イ/第3款:1場面ac働きabce, 2イ, 3ア/第4款:2(2)	122-123	2
Reading	第2款:第2-2(1)イ(2)ア, 第2-3(1)/第3款:1働きbd, 2イ, 3ア/第4款:2(2)	124-130	6
つながりを示す語句	第2款:第2-2(2)イ	131	1
Basic Sentences	第3款:2ウ(ア)(イ)(ウ)(エ)(カ)(キ)(ク), 3イ	132-143	—
Useful Phrases & Idioms	第3款:2ア(イ)	144-151	—
		計	79

教科書全体の英語	教科書で使用されている英文は全て、現代の標準的な英語を使用するように配慮した(第3款:3(ア))	全課	—
・新出語:415語 ・中学校で学習した語:1,070語 ・連語及び慣用表現	第3款:2ア(ア)(イ)	本文ページ 傍注及び脚注	—